一般質問 要旨

野外芸術文化ゾーン計画及び病院運営・医師確保に質問集中！

第一回定例会での市政に対する一般質問は、三月九日、十二日の二日間行われ、十二人の議員が登壇した。市職員定数、野外芸術文化ゾーン計画、木造校舎の改築計画、妊産婦対策、下水道事業経営などについて活発な議論が展開された。要旨は次のとおり。

一般質問者紹介

岩城康一郎
工藤正廣
野月一博
舛甚英文
竹島勝昭
鳥越正美
堰野端展雄
畑山親弘
田中重光
杉山道夫
今泉勝博
石橋義雄
（発言順）

注）発言順と掲載した順序とは一致しません。

総務文教

市職員の定数について

質問　五ヵ年の職員数の純減と、その費用効果について、一般職員、上下水道職員、病院職員のそれぞれで伺いたい。

答弁　平成十七年度に策定した平成二十一年度までの集中改革プランにおける定員適正化計画に基づいて、一般職員では四十八名の減、上下水道では一名の減、病院では十五名の減としており、市全体では六十四名の減員を見込んでいる。

費用については、一般職員で十八億一千六百万円、上下水道で四千八百万円、病院で二億一千二百万円、合計では二十億七千六百万円の減額を見込んでいる。

夜間市税納付窓口の入口となる職員通用口

市税滞納対策について

質問　市税滞納に対する回収策及び収納率向上策をどのように考え、計画しているのか伺いたい。

答弁　これまで納税者の利便性を高めるため、従来行っていた日中の納税相談に加え、日にちを定め、夜の相談と納付の窓口を開設して対応するとともに、口座振替の推進による納め忘れ防止などに努めてきているところである。

また、収納率の向上に向け、滞納整理の推進と徴収の強化を図るために、昨年八月に市税滞納整理本部を設置した。納税に誠意のない滞納者に対しては、差し押さえ処分を強化し、差し押さえた自動車や動産をインターネット公売により現金化し、滞納額に充当する。今後は、さらに納付窓口の拡大を図るため、軽自動車税についてはコンビニエンスストアでの収納を実施するほか、近年増加傾向にある三十万円未満の滞納者に対して、自動電話催告システムを導入して早いうちに滞納整理の折衝を実施するなど、一層努力していきたい。

野外芸術文化ゾーン計画について

質問　（仮称）アートセンターは、新しく名称が決まり「十和田市現代美術館」となったが、十和田市現代美術館の建設後は、一度事業を止めて、アート作品についての市民の評価、誘客がどのくらいになるのかをみた上でやり直しても良いと思うが、どのように考えるか伺いたい。

答弁　この事業は、官庁街通り全体を美術館に見立てて整備するというコンセプトの中で進めているものであり、現代美術館建設後は残りの場所についても事業を進め、早めに効果を出したほうが得策であると考える。特に事業が終了する平成二十二年度からは、新幹線の八戸青森間も開通するので、観光客等にも効果的に活用したいため、計画どおりに進めていきたいと考えている。

姿を表わした「十和田市現代美術館」

質問　十和田市現代美術館の運営は、どのような形態になるのか。

また、維持管理費は、どのように試算されるのか伺いたい。

答弁　市の直営を基本としている。ただし、必要に応じて民間や市民の活力を部分的に導入することも検討している。具体的には、カフェや売店など、経験が必要な部分については先日営業希望者を募集し、選定したところである。また、企画展やアートプログラムについては、必要に応じ、その道の専門家や団体へ委託する方法も考えている。併せて、市民や学生ボランティア、NPO等の協働も模索し、状況に応じ、運営体制に取り入れていきたいと考える。

維持管理費については、現時点での試算では基本計画で示した約五千万円から一千四百万円程度減額できる見通しであるが、収入も当初有料で見込んだシンボルアート、駐車場等を無料化することにより同程度の減収が見込まれ、差し引き不足額は約一千万円程度と、当初見込みと変わらないものと想定している。